

令和6年度 小林市立野尻小学校 学校関係者評価書

評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

学校経営 ビジョン	○「教育活動の充実」と「働き方改革」の一体的推進を図ることにより、知（きらきら）・徳（にこにこ）・体食（ぐんぐん）調和のとれた児童を育成する。 ～「行きたい、通わせたい、育てたい」と心から思え、地域とともにある学校づくりを通して～
--------------	--

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知 育	○ 学力の向上 「夢に向かって自分の考えをもち、進んで学ぶ児童の育成」 「学びたい度」80%超え、「全国学テ」「みや学テ」県平均超え、単元テスト平均85点超え				○ 全国学力テストで全国平均を上回ったのは、校長先生を中心とした先生方の努力であり、「授業デザイン」に基づく指導の評価であると高く評価します。 ○ 自己表現能力については日本人特有の弱点と言われます。グローバル化した国際社会に羽ばたく子どもたちには大切な能力ではないかと考えます。 ○ タブレットPCを活用している意義が児童に伝わっているか、保護者に伝わっているが疑問である。何のためのタブレット活用か教えることも必要。 ○ 各種テストの目標を達成できたかが不明。パワーアップタイムの取組については一定の評価に値する。 ○ 立腰指導、鉛筆の持ち方についてはある程度徹底できていると思うが、継続と意識付けが必要。 ○ 読書、読み聞かせについては今後も継続してほしい。電子書籍の動向が気になるが・・・。 ○ 学習支援ボランティア、キャリア教育共に日頃の地域との連携が鍵になると思う。地域人材の活用を積極的に働きかけてほしい。 ○ 学習規律については、家庭との連携が不可欠である。姿勢や鉛筆の持ち方など、図にしたものを共有するとよい。 ○ 具体的な数値目標があるものについては、見込みを含め取組結果にも数値がほしい。 ○ 図書の貸出が目標達成可能であるということに感心している。 ○ タブレットに慣れておくことで、中学・高校になってからもスムーズに使えと思う。 ○ 学力向上、表現力向上のために、①研究授業、②タブレットPCの活用、③パワーアップタイム等の取組により成果が見られる。
	1 授業の充実と改善	○ 年間に1回の研究授業を各学級で実施できた。今後も主題研と絡めて実施していく。研究授業の他、普段の授業でも児童同士の学び合いの姿が見られた。 ○ タブレットPCの活用については、月間平均60時間以上の活用ができています。今後は「効果的な活用」により、表現力向上に生かしていきたい。 ※ タブレットPCはネット環境、フリーズ発生等の問題点があるが来年度更新予定である。	3. 0		
	2 学力調査等の活用	○ パワーアップタイム（金曜日）の時間を活用し、苦手な課題に取り組むことができた。 ○ みやざき学習状況調査は本年度よりタブレットを利用した実施方法（CBT）に変更になったため、タブレット操作に慣れておく必要がある。今後は全国学力テストもCBTに移行することが考えられる。	2. 7	3. 2	
	3 学習規律（授業中・家庭学習）の徹底	○ 立腰指導については、意識付けはできたが継続はなかなか難しい。また、鉛筆の持ち方については、一度癖が付いてしまうと修正が難しいため、低学年のうちから指導を徹底しておく必要がある。	2. 7		
	4 読書・読み聞かせの推進	○ 図書館協力員と連携を図りながら実践を行うことができた。12月13日の時点で1人平均84冊の貸出があり、目標達成が可能であると思われる。 ○ 読み聞かせグループ「たんぼぼ」の読み聞かせを子どもたちが楽しみにしており、読書への興味・関心が高まった。	3. 4		
	5 個に応じた学習支援の工夫	○ 資料作成や教室のカーテン補修等でご協力いただいた。また、持久走の際も見守りで保護者の協力もいただいた。 ※ ボランティアに関しては次年度に向け、新たな地域人材の発掘と活用を図っていく。	2. 8		
	6 キャリア教育の充実	○ 各学年の体験活動を計画的に進めることができた。今後は小林市キャリア教育支援センターの活用に限らず、小学校におけるキャリア教育について、職員の意識を高めていく必要がある。	2. 9		

徳 育	○ 豊かな心の育成 「思いやりの心をもち、よりよく生きることのできる児童の育成」 「学びたい度」学校への満足度（学校が楽しいと思う児童） 100%			3. 7	○ 毎月のアンケートや「にこにこ委員会」の取組を通じた指導は大変すばらしい。継続をお願いしたい。 ○ 何のために挨拶、会釈、返事、時間厳守、履き物をそろえ廊下歩行が必要なのか子どもたちに考えさせ、実践させることが必要。 ○ 「あのねアンケート」と教育相談はよい取組だと思う。守秘義務に留意の上、継続していただきたい。 ○ 人権意識の高揚が、いじめ及びそれに起因する不登校の解消につながると思われる。全職員で情報を共有し、指導の方策を協議していることは評価できる。 ○ ボランティア活動については、やらされ感がないように、自分たちの活動の意義について実感しながら継続できるとよい。 ○ 「凡事徹底」は旧野尻町時代から取り組んできた項目で、現在も取組が継続されていてありがたい。 ○ 今後も、児童の身近にある小さな人権の事例等から意識付けをお願いしたい。 ○ アンケートによる児童理解は今後も継続して行って欲しい。 ○ 米作りや芋の栽培等、地域との繋がりも良好であると思われる。 ○ 登下校時の挨拶は元気よくできており、「凡事徹底」の指導の成果が見られる。 ○ いじめ・不登校への対策は全職員で情報が共有される取組が行われている。 ○ 人権の大切さ、ボランティア活動の意義についての指導で、豊かな心・思いやりの心の育成に努められている。
	1 「凡事徹底のじりっこ」 「むごんの場」等による望ましい生活習慣の定着	○ 挨拶、会釈を自分からできる児童は少ない。年々、自分から挨拶できる児童が減ってきているような気がする。挨拶の大切さについて全体で考えていく必要がある。 ○ 時間厳守については、チャイムが鳴ってから席に着く児童も多い。時間を意識させたい。 ○ はき物を揃えることについては、十分でない場所も見られる。使った物は元に戻すという意識付けをさせていきたい。 ○ 廊下歩行については、職員による声かけができていなかった。当事者である児童自らに話し合いをさせることによって、意識付けを行っていきたい。	3. 0		
	2 定期的なアンケートや教育相談の充実	○ 「あのねアンケート」を活用し、全職員での児童理解、対応を行うことができる。	3. 8		
	3 いじめ未然防止のための徹底指導や不登校への組織的対応	○ いじめ・不登校については、全職員で情報を共有し、指導の方策を協議している。これまでに認知したいじめについては、すべて解消となるまで（3か月）見届けを行っている。	3. 7		
	4 実態に即した道徳の時間の指導改善と人権教育、特別支援教育の推進	○ 人権週間に、人権について考える授業参観を実施し、家庭にも人権の大切さについて発信することができた。次年度以降も実施していきたい。 ○ ピア・サポートについての職員研修を実施し、授業に生かすことができた。児童の人権意識の高揚が見られている。	3. 3		
	5 自分で考えて実行するボランティア活動等の推進と豊かな体験活動の充実	○ ボランティアについては学年、委員会を中心とした活動が行われているが、その意義について考えさせると共に、児童を褒める指導を心がけたい。 ○ 米作りや、イモの栽培、棒踊り、社会科見学等、体験活動が充実していた。	3. 4		

体 育	○ 体力の向上「自分の健康や体力に関心をもち、将来にわたり心と体を鍛え続ける児童の育成」			3. 3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力づくりについては、今後も児童一人一人の能力に合わせた無理のない指導に取り組んでいただきたい。 ○ 研究授業により、体育科授業の工夫を行うためのきっかけづくりが行えたということで、次年度以降の取組が期待される。 ○ 遊びながら、運動への関心、体力の向上につながるよう継続していただきたい。 ○ 学校保健委員会で目の健康を取り上げていただいたのはよかった。今後、親子で学習する機会もあるとよい。 ○ 児童の体力については二極化していることが考えられ、全体的には体力が下降気味ではないかと想像する。また、タブレットやスマホ等の使用により、目の環境は悪くなってきていると考えられるので、引き続き取組をお願いしたい。 ○ 外遊びが減ってきているように思うので、昼休みや体育等で実践してもらいたい。 ○ 体力向上を図るため、体育科の授業の工夫、体育ファイルを活用した個々の指導等、様々な取組が行われている。
	1 スクールスポーツプランに基づく体育指導の工夫・改善	○ 運動の強化までには至っていない。しかし、本年度は体育科の研究授業を実施することにより、体育科の授業を工夫していくためのきっかけづくりを行うことができた。	2. 9		
	2 体力テストの分析と課題改善への取組の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「スクールスポーツプラン」については全職員での共通理解を図ることができていなかった。次年度は年度当初に説明会を実施し、児童の体力向上に努めたい。 ○ 「体力ファイル」については、体育学習の記録を積み重ね、課題を明確にすることにより、体力向上を図っていく。 	2. 7		
	3 運動遊びや多様な運動種目への関心を高める体育的活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昼休みについては、児童が元気に遊んでいる姿が見られる。本年度も1・2月は委員会児童による縄跳び大会やドッジボール大会を予定している。 ○ 持久走等では児童一人一人が目標を設定し、その達成に向けて運動に取り組むことができていた。 	3. 2		
	4 家庭と連携した健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本年度は「目の健康」をテーマにして第1回目の学校保健委員会を実施した。タブレット使用による視力低下も懸念されるため、今後PTAとも連携を図りながら更なる指導の充実が必要である。 ○ 「フッ化物洗口」については安全対策を十分に行いながら計画的に実施していくことができた。 	3. 4		

食 育	○ 食育の充実 「望ましい食習慣を身に付け、将来にわたり、健康な生活を送る児童の育成」			3. 7	○ 夏休みの課題「食の贈り物」を全児童が考えて、児童一人一人にコメントを付して掲示された取組は大変素晴らしいと高く評価します。給食便りの計画的な発行、残食0の達成も素晴らしいと思う。 ○ 夏休みの課題の取組はよかった。弁当の日を含め、冬休みや秋休みなど無理のない程度で頻度を増やしてもよい。 ○ マナー指導については家庭との連携も必要だと思う。 ○ 食物アレルギーの対応は神経をつかうところであるが、事故のないように継続していただきたい。 ○ 「食」が当たり前にあるように思われがちだが、「ありがたい」という意識付けのためにもよい取組だと思う。 ○ 現在実施している、東麓地区営農組合との活動も食育の一つとなっている。「地域と連携した食育活動」の項目も設定してはどうか。 ○ 食育の取組をいろいろと工夫されていて感心した。給食の残食0もすばらしい。 ○ 望ましい食習慣、健康な生活を送るため、栄養教諭や保護者との連携、さらには個に応じた指導も実施されている。
	1 小中一貫した食育の推進	○ 夏休みの課題「食の贈り物」のについては提出率が96%であり、食について考えるよい機会となった。 ○ 栄養教諭とのT・Tによる食に関する授業を実施することができ、充実した食育を行うことができた。	3. 5		
	2 家庭と連携した「弁当の日」の取組の充実	○ 保護者の意見を取り入れて長期休業中に実施したことにより、親子でゆとりをもって取り組むことができた。	3. 6		
	3 望ましい食習慣の育成と健康に係る個別指導の充実	○ 残食についてはほぼ0の状態である。偏食傾向や小食の児童もいるが、各学年とも個に応じた指導がなされている。 ○ 小林市保健センターと連携し、食育個別相談を全児童対象に実施している。3年目を迎え、保護者の栄養相談のよりどころとなっている。 ○ 給食時はマナー指導については、年度当初に提案を行い、全職員の共通理解を図っていきたい。 ○ こすもす科で実施した食育の授業を家庭科の調理実習に生かすことができた。 ○ セルフ給食の仕方や歯みがき後の手洗い場の使い方についての掲示物を作成し、指導に生かすことができた。	3. 2		
	4 食物アレルギーへの対応と安心・安全な給食の提供	○ 食物アレルギーについて、年度当初に共通理解を図ったことで安全に対応することができた。 ○ 宿泊を伴う学習時の前には、面談やアンケートを実施し、十分な打合せを行い、アレルギーに関する事故の防止に努めることができた。	3. 5		
	5 食に対する感謝の心の育成	○ 学校と家庭の連携を深めることで、給食感謝週間をより充実させていくための工夫が行われている。	3. 6		

その他	○ 服務規律の徹底及び働き方改革の推進			3. 5	3. 5	○ 「働き方改革プラン」に基づいた残業時間の減少が図られたことを高く評価します。児童は先生の姿を映し出す鏡だと思います。健康で活気ある職場を築いていただきたい。 ○ 先生方は知力だけでなく、体力も必要な職業だと思う。メンタルヘルスにも留意の上、誰もが健康で働き続けられる職場であってほしい。 ○ 先生方には数字にできない苦労もたくさんあると思う。感謝申し上げると共に、今後も引き続きお願いしたい。 ○ 引き続き、時差勤務などにより働き方改革を推進してほしい。 ○ 研修の実施等により、コンプライアンスが遵守され、良好な学びの環境となっている。 ○ 職員の勤務時間は業務の見直しが行われ、改善に努められている。
	1 服務規律の徹底	○ 本校独自のコンプライアンス遵守事項「個人情報流出防止」を定め、私用カメラ、私用USBメモリの利用禁止の徹底を行い、個人情報流出を防止することができた。 ○ コンプライアンスチェックを毎月実施し、職員の意識向上を図ることができた。 ○ 風通しのよい職場環境づくりを通して、今後も法令及び倫理等に反する違反ゼロを維持していきたい。	3. 5			
	2 働き方改革の取組の推進	○ 昨年度よりも更に職員の時間外勤務を削減することができている。次年度以降も「時差勤務」等の活用を図り、働き方改革を推進していきたい。 ○ 12月末までの時間外勤務の月平均時間は21.4時間（昨年度27.5時）であり、本校における働き方改革が進んでいると考えられる。	3. 2			

次年度の方向性についての 校長所見	<p>○ どの分掌部も学校経営ビジョンを具現化するために、いろいろな手立てを工夫して取り組んでおり、総合評価が3.0を上回ることができた。特に、徳育と食育においては、人権教育と食への感謝、体験活動を軸にしながら、家庭・地域との連携を図った取組を積極的に推進することができた。</p> <p>○ 知育においては、各種学力調査や各学年の学習単元テストの結果から、概ね良好な結果を得られているが、どの学年においても学力の二極化が進んでおり、個に応じた手立てや支援、ICT 活用による支援や学習内容の定着等、次年度に向けて、まだまだ授業改善や家庭学習の改善を図っていく必要がある。</p> <p>また、学力の二極化や個に応じた支援への対応を図るために、授業における学習ボランティアの活用を推進していく必要がある。</p> <p>○ 体育においては、体育の授業や各行事、全校での運動への取組を通して、児童の運動技能や体力の向上を図っているが、年間を通した体力向上を図る取組や本校の児童が苦手とする領域の運動について改善を図る必要がある。また、気温が高くなる時期の運動や体力向上の在り方についても新たな視点で検討を図っていく必要がある。</p> <p>○ 徳育においては、「あいさつ・返事・会釈」の励行を重点に、「凡事徹底」を更に強化しながら、児童・教職員が楽しいと思える落ち着いた学校生活ができるよう全校で継続して取り組んでいく。食育においては、「食への感謝」を重点に、家庭や地域と連携した取組を引き続き積極的に推進していく。</p> <p>○ 次年度は、「あいさつ・返事・会釈と凡事徹底」、「読書活動の充実」、「目の健康と規則正しい生活リズム」、「食への感謝」の4つのテーマを重点に、本年度の取組を更に充実させ、魅力ある特色ある教育活動を展開していきたい。</p>
----------------------	--